

English Vocabulary Profileを語彙指導に活用する

内田, 諭
九州大学准教授

<https://hdl.handle.net/2324/1932350>

出版情報 : 英語教育. 65 (12), pp.32-34, 2017-01-14. 大修館書店
バージョン :
権利関係 :

English Vocabulary Profile を指導に活用する

内田 諭

Satoru Uchida

(九州大学准教授)

はじめに

言語の運用レベルの測定基準として、近年 CEFR (Common European Framework of Reference) がよく用いられるようになってきている。CEFR はヨーロッパの複言語・複文化を背景に、言語の習得の段階を A1～C2 の 6 レベルで技能ごとに規定するものである。「言語を使って何ができるか」という点に焦点が当てられ、評価指標は can-do リストの形で提供されている。英語運用能力の評価を CEFR に準拠することには、レベルの標準化が可能になるというメリットと、技能とのリンクが明確になるというメリットがある。

English Profile は、英語の運用能力を主に「語彙」、「文法」の観点から CEFR レベルに対応付けたものであり、前者は English Vocabulary Profile (EVP)、後者は English Grammar Profile と呼ばれ、例えば A2 レベルの学習者であればどのような語彙を知っているか、あるいはどのような文法を知っているかということを示したものである。本稿では English Vocabulary Profile に焦点を当て、語彙指導への応用の方法について考える。

EVP の特徴

EVP はメールアドレスを登録してアカウントを作成すれば無料で利用することができる。オンライン辞書のように使うことができ、単語やフレーズを検索ボックスに入力すると、その語句の CEFR レベルが表示される (例えば describe を検索すると A2 レベルだとわかる)。また、特定の CEFR レベルを指定してそのレベルに属する単語やフレーズのリストを得ることも可能である。

EVP の重要な特徴の一つは、各レベルの学習者が「知るべき語句のリスト」ではなく「知っていると思定できる語句のリスト」となっている点である。EVP の語彙レベルは Cambridge Learner Corpus (CLC) という大規模な学習者コーパスによって数量的に裏付けられたものである。この特徴により、教師が対象の学習者の CEFR レベルを把握していれば、どの語句の意味がわからないかなどをおおよそ予測することが可能となる。

EVP では一般的な辞書的な用例だけではなく CLC から抽出された学習者英語の実例を見ることができる。例えば、describe の項目では A2 レベルのポーランド人の学習者が書いた I would like to describe the food from my country. という文が提示されている (図 1)。前述の特徴と合わせると、EVP を参照することで特定のレベルの学習者が「どのような語句を知っているか」だけではなく「その語句をどのように使うことができるか」ということを知ることが可能となる。

The screenshot shows the EVP search page for the word "describe". On the left, there are navigation options for British and American English, level selection (A1 to A1-C2), and a search bar containing "describe". The main content area shows the word "describe" with its phonetic transcription /dɪ'skraɪb/. It lists the word family: Nouns: description, Verbs: describe. Below this, it indicates the verb form [T] and the level A2. The definition is "to say or write what someone or something is like". It provides several dictionary examples: "Can you describe your bag?", "He described the painting **in detail**.", "Let me describe (**to** you) **how** it happened.", and "She described Gary **as** shy.". A learner example is highlighted in yellow: "I would like to describe the food from my country." with a reference to "Skills for Life (Entry 2); A2; Polish".

図 1 EVP の検索画面

さらに、CEFR レベルが単語やフレーズの「意味」単位で付与されている点も特徴的である。例えば、warm を検索すると、「(天候などが) 暖かい」の意味では A1、「(衣類などが) 暖かい」の意味では A2、「友好的な」の意味では B1 と示され、「温める」という意味の動詞では B2 となる (図 2)。これにより、学習者がどの順番で多義語の意味を学んでいくのかというプロセスを垣間見ることができる。

TEMPERATURE

A1 having a temperature between cool and hot

Dictionary examples:

*Are you warm **enough** or do you want the fire on?*

I've got my hands in my pockets to keep them warm.

Learner example:

I like to [go] surfing there because [the] water is warm.

Skills for Life (Entry 1); A1; Hungarian

CLOTHES

A2 describes clothes and covers made of a material that keeps you warm

Dictionary examples:

I don't have a warm winter coat.

Those gloves look nice and warm.

Learner example:

Remember you should wear warm clothes.

Key English Test; A2; Portuguese

図 2 warm (形容詞) のエントリーの一部

そのほか、トピック別に単語が分類されているという点もユニークで、Animal, Clothes, Food and Drink など 22 のカテゴリーが示されている。また、単語だけではなくフレーズ単位のイディオムや口語表現も含まれており、単なる単語リスト以上の情報を提供している (例えば Happy Birthday/New Year, etc. [A1], Take care! [A2] be/get/keep, etc. in touch [B1]など)。

EVP を使った語彙指導

①語句のレベルを確認する

EVP の活用法として、最もオーソドックスな方法は、教材中の英単語のレベルを確認することである。ある単語が現在教えている学習者にとって難しいだろう感じたときに EVP で CEFR レベルを調べれば、直感をデータで裏付けることができる（あるいは目測を修正することができる）。例えば、A2 レベルの学習者が使う教材に significant (重要な) が出現した場合、一般の教師であれば少し難しいと感じるだろう。実際、この単語を EVP で調べると B2 とわかり、この感覚が正しいことが証明される。したがって、この単語は A2 レベルの学習者には難しいと想定でき、例えば A1 レベルの important に置き換えて示すことが有効な対応策となるだろう。単語だけではなく、イディオムや句動詞の検索も可能である。例えば hand in (～を提出する) を調べると、B1 レベルだとわかる。一方で submit は B2 レベルに位置づけられているので、「提出する」という意味では、hand in のほうが学習者にとって馴染みのある（あるいは馴染みやすい）ものだということが読み取れる。

②多義語の指導に活かす

EVP では語義ごとにレベルが示されているので、多義語を指導するときに有益な資料となる。例えば、A2 レベルの学習者が使っている教材に「骨折する」という意味の break が出てきたとしよう。EVP によると、この意味は A2 に分類されており、A2 レベルの学習者であれば使いこなすことができると想定できる。では break のその他の意味についてはどうだろうか。EVP では、「割る」[A2] (例: break a window)、「壊す」[A2] (break a camera) などの意味は A2 に分類されているため、これらの意味は既習として扱っても問題はなさそうだと判断できる。一方、「休憩する」[B1] (break for lunch)、「法を破る」[B2] (break the law) などは B1 以上のレベルであるため、自由に作文や発話をさせても出てくることは想定しにくい。もし break の多義性を応用的に取り上げるのであれば、これらの意味を示すと効果的であると考えられる。また、「休憩する」、「法を破る」などの意味で break がテキスト中に出現した場合は、A2 レベルでは注釈が必要だと判断できるだろう。

③自由英作文のヒントとして使う

TOPIC 別に語句が分類されている特徴を活かすと、テーマに沿った自由英作文や自由発話を行うときの語彙リストとして用いることができる。Advanced Search を使うことで、例えば「政治 (Politics) に関する B1 以下のレベルの語彙」をリストすることが可能となり、次のようなリストを得ることができる。

A1: country

A2: capital, national, king

B1: election, embassy, government, leader, party, political, politician, politics, president, public, security, vote, win

これらの単語は B1 レベルの学習者であれば使いこなすことができると想定でき、内容を考える上でよいヒントになる。ただし、Politics の Topic では B2 がボリュームゾーンで、candidate, citizen, democracy, government, independence, minister などの単語が含まれる。応用的な使用法になるが、トピックごとに各レベルの単語の数を調べることで、どのトピックがどのレベルに向いているかを確認できる。例えば、Clothes, Food and Drink, Homes and buildings は A2 が最頻値（あるいは最頻値と同等）であり、

A2 レベルのトピックとして向いていることがわかる (図 3)。一方、Crime, Politics は B2 が最も多く、A レベルでは難しいトピックであると判断できる。

Topic/CEFR Level	A1	A2	B1	B2	C1	C2
Clothes	14	36	32	25	5	4
Food and drink	53	83	83	58	24	17
Homes and buildings	38	58	58	48	15	9
Crime	0	7	26	65	9	24
Politics	1	3	14	43	15	25

図 3 各レベルの Topic 別の語句の数

まとめ

EVP は CEFR に準拠した語彙リストであるということが大きな特徴の一つである。また、学習者コーパスに基づいているという点も特徴的であり、学習者の産出言語 (Output) を直に見ることができる。一方、学習者の入力言語 (Input) については、投野科研 (課題番号: 24242017) の成果として、近々 Grammar Profile と Text Profile が公開される予定である。CEFR ベースで作成されたコースブックコーパスを基に、どのレベルでどの文法事項が出現し、各レベルの語句がどのくらいの割合で使用されているかなどの情報が含まれている。これらの資料を合わせて参照することで、より包括的かつ体系的な形で CEFR レベルと can-do リストを提示することができるだけでなく、語彙と文法を有機的に対応させることが可能となり、シラバス作成や教材開発等に大いに役に立つだろう。